

# SCOUTING 茨城

1999年・6月☆茨城県連盟広報委員会発行

## 2 地区 韓国へ行く

韓国姉妹地区との交流を始める

2地区副コミッショナー 吉川 勲



2地区竹本委員長，ソウル南部連盟安事務局長

### 韓国スカウト交流の成功

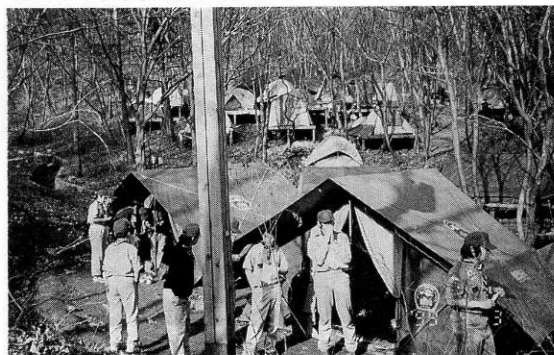
第2地区では、去る3月31日(水)から4月5日(月)にかけて5泊6日の日程で大韓民国ソウル市を訪れ、ソウル南部連盟の松坡(ソンバ)地区と交流キャンプを行いました。

「第1回水松(ス・ソン)スカウト交流キャンプ」の名称で、「海を越える友情が未来を築く」をテーマに実施されたこの国際交流には、ベンチャースカウトを中心に43名のスカウトと、それを支援する9名の引率指導者および本部要員として8名、計60名が参加しました。迎えてくれた松坡地区からは、カブスカウトからシニアスカウト、そしてガールスカウトも加わって総勢150余名が参加しています。

交流キャンプの会場となったのは、ソウル中心部から車で40分ほど南に行ったコンジャンという場所にある、韓国連盟の「中央野営場」でした。この野営場は、山の斜面にサイトをいくつも設置しており、しかもカブスカウトなどの宿泊のような巨大な常設テントも多数用意された設備の整ったキャンプ場でした。キャンプ場整備にあたっては、自然の景観をできるだけ損なわないように配慮されていて、落葉樹の林の中で自然を

満喫できる素晴らしい野営場でした。

スカウト同士の交流キャンプは正味2泊3日でしたが、言葉の壁をものともせず、住所やバッジなどの交換も盛んに行われ、スカウト達にとっては、とても楽しいキャンプ生活だったようです。



ボーイスカウト韓国連盟

中央野営場(コンジャン)

### 「チャンチャ乗り」

日本と韓国は学校制度などがとてもよく似ていますが、あいにく春休みが1ヵ月ほどずれています。日本では3月下旬から4月上旬までの2週間ほどが休業期間ですが、韓国では3月から新学期が始まります。今回の交流キャンプは、韓国のスカウトにとっては学期の最中の計画になりますから、準備に相当苦労したのではないかと思います。

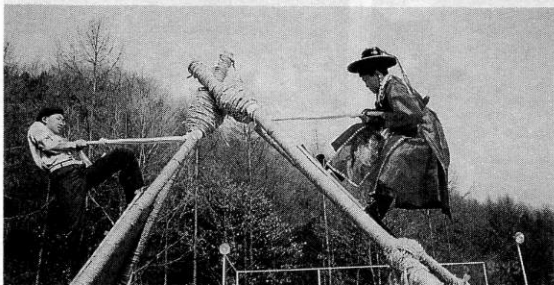
しかし、そんな中で実に魅力的な交流プログラムを準備していただきました。とりわけ素晴らしかったのが、韓国伝統芸能(?)の「チャンチャ乗り」でした。これは日本で言えば「けんか神輿」のようなものです。ただし非常にゆったりと展開される儀式的色彩の強いものです。

乗り物は、丸太を3角形の形に組んで縛り、「神輿」ならお社があるべき位置に手綱を持った少年を乗せ、

それを力の強い年長者がかつぎます。数回儀礼的な顔合わせをした後、三角の頂点の位置でお互いの乗り物を組み合わせそれを双方から押し上げます。そしておそらくは、上に乗っている少年がバランスを崩した方が負けるというような、儀礼的に優劣をつけるものようです。

今回のプログラムでは、2地区が勝ちました。遠来の客に勝ちを譲ってくれたものと考えています。このプログラムが素晴らしかったのは、ただ優劣の問題ではなく、実際に儀式として行われる時の本格的な衣装を用意していただいたことです。

このプログラムばかりでなく、楽器の演奏を行うプログラムでも、本物の伝統楽器を用意していただき、実際にスカウトがそれを演奏できました。たしかに、この交流に備えて韓国語も少しは勉強しましたし、歴史や文化の講義も聞きました。しかし「行くことにより学ぶ」というスカウティングの基本的方法を実践できたことは、スカウトにとっても、この交流キャンプを準備した地区役員にとっても望外の喜びでした。



チャンチャ乗り(交流プログラム)

### 「姉妹地区協定」

今回2地区では、韓国連盟の松坡地区と「姉妹地区協定」を交わし、永続的な交流を始めることになりました。地区として外国と「姉妹協定」を結ぶのは、おそらく、これが日本連盟でも最初の事例になるそうです。茨城県連盟としても、永年スカウトの海外派遣計画を進めてきましたから、これは大きな喜びです。

スカウトの海外旅行に関してはいくつかの方法があります。教育の面からいえば、「国際理解」「国際交流」「国際協力」「国際貢献」と段階的に進歩するわけです。2地区の教育委員会で企画された時点では、とにかく海外に行って交流キャンプをしようというものでした。一気に「国際交流」を行おうと目論んだのです。

当時の竹本地区委員長が企画してから半年ほどして日連の「国際紹介状」をいただき、竹本地区委員長以下、桧山・大場・吉川の4名が韓国連盟を訪問し、交流相手地区の紹介を依頼したときも「姉妹協定」までは考えませんでした。韓国連盟ではちょうど新築直後



姉妹地区協定書交換(コンジャン野営場)  
成・竹本両地区委員長H.11.4.3日

の引越し中でしたが、事務総長以下国際部のスタッフに丁寧に迎えていただき、感謝したものでした。

その後はE-mailとFAXを使って連絡を取り合いました。秋になって松坡地区とプログラムの具体的な詰めを行う課程で何となく「協定」を結ぶような話になり、12月になって、竹本・吉川・西野・神原の4名が打ち合わせのために再びソウルを訪問したときには既定に事実のような扱いになりました。

この訪問の時には、松坡地区役員が空港まで出迎えてくれ、3日間の滞在中は、打ち合わせのときも野営地の視察の時も、役員総出で真剣に検討することができました。松坡地区には顧問各のリー・ボンサン先生という方がおられて、この方に日本語の通訳をしていただいたことは幸いでした。話は実に順調に進みました。「姉妹地区協定」が交流の前提になりました。

2月には、松坡地区からリー先生・リー・サンジュ地区事務長・クォン地区コミッショナー・パク地区役員の4名が水戸を訪問されました。2地区でも地区役員総出で歓迎し、少なくともその時点で、お互いの理解は随分深まったものと考えられます。その結果、地区役員同士ではどんどん交流の企画が煮詰まり、まだ第1回の交流も終わらないうちから、第2回のスカウト交流計画が始まることになりました。



統一展望台「あれに見えるは38°線～」

